

## 日本教育学会第74回大会 ラウンドテーブル

8月28日（金）17：00～19：00 お茶の水女子大学 共通3-104

<http://www.jera74.jp/index.html> （どなたでも自由に参加できます）

オムツ替えは「教育」か？～東京都立特別支援学校における「学校介護職員」制度の導入をめぐる

▽企画内容など……

企画者：河合 隆平（金沢大学）

司会者：河合 隆平（金沢大学）、猪狩恵美子（福岡女学院大学）

報告者：佐田光三郎（肢体不自由教育を考える会）

竹下 忠彦（東京都立特別支援学校）

高木 尚（元東京都立特別支援学校）

塩崎 美穂（日本福祉大学）

### 【企画の趣旨】

身体・運動機能に障害のある肢体不自由児や重症心身障害児にとって、かれらが主体形成や生活づくりをはかるうえで、他者から介助を受けることは不可欠であり、障害児教育においても介助がもつ人間形成の作用をふまえた教育実践が蓄積されてきた。「オムツ替えも教育だ」する教育観も、重症心身障害児への身体介助を通じてのコミュニケーションの確立や人格形成の契機を発見するなかで生み出され、「教育不可能」とされた重度障害児の学校教育の成立に寄与してきた。

1960年代に誕生した東京都の「学校介助員制度」も、養護学校での保護者輪番による介助や授業補助を解消するものとして期待されたが、やがて複数担任制へと発展しながら、都立養護学校希望者全員就学（1973）の実現を下支えした。ところが、都立特別支援学校（肢体不自由校）では2012年度より「学校介護職員制度」が本格導入され、2016年には全校に導入予定である。この制度のねらいは、「学校介護職員」が子どもの身辺介助を分担することで、教員の負担軽減と教育指導への専念を図ることにある。財政効率の観点から、教員数削減とセットで介護職員を導入するこの制度は、肢体不自由教育において不可分である学習指導と身辺介助を機能的に分離させるものであり、教育実践と学校運営にいくつもの矛盾を引き起こしている。

本ラウンドテーブルでは、同制度のねらいと実態を明らかにしながら、肢体不自由教育における「教育」と「介助」の関係構造、「介助」に内包される人間形成と発達助成の機能についての教育学的考察を行いたい。